

1 視覚障がいのある子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①視覚障がいの状態等の把握		
視点	事項	記録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	5歳2ヶ月で右眼球摘出。その後、左眼に細胞腫が転移、治療継続中。
	視覚障がいの状態	網膜芽細胞腫、白内障
	現在使用中の補装具等	H30より新しい義眼を使用している。
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	身体の健康と安全	眼球に衝撃を与えないように、ボール運動等を制限している。
	保有する視覚の活用状況	ゴシック14ポイント
	基本的な生活習慣の形成	生活面での支援を必要としていない。
	運動・動作	特記事項なし
	感覚機能の発達	特記事項なし
	知能の発達	特記事項なし
	意思の相互伝達の能力	自分から意思を表出する経験が少ないため、主体的な伝達は苦手。
	情緒の安定	特記事項なし
	社会性の発達	経験が少ない。
	本人の障がいの状態等に関すること	
	障がいの理解	自分の病気を受け入れ、アイマスクを利用した点字等の学習にも積極的に取り組んでいる。
	障がいによる学習上又は生活上の困難を改善するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力	自立活動において、自分の見え方や補助具等の使い方を学んでいる。
	自立への意欲	園や小学校では、教師や周囲の仲間が声をかけてから行動することが多い。受け身である。
	対人関係	介助員以外に、援助を要請することが少なく、周囲の者に察して動いてもらうまで待つことが多い。
	学習意欲や学習に対する取組の姿勢	道具を使う活動に対して、苦手意識がある。
	諸検査等の実施	
	個別検査の種類	視機能検査 右（義眼）左（0.3）
	検査実施上の工夫等	特記事項なし
	検査結果の評価	特記事項なし
	発達検査	広D-K式視覚障害児用発達診断検査（H30.9）
	行動観察	特記事項なし
	認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報	常に介助員と一緒に生活していたため、介助員を仲介した他者との関わりが中心。周囲からの働きかけにも介助員を介して応えることが多い。

②視覚障がいのある子供に対する特別な指導内容	
視機能の発達を促す	保有する視覚を用いて、注視点の移行、追視などの眼球運動を行う。
的確な概念形成と言葉の活用	具体的な事物や事象を、その言葉や意味とを結び付けて覚える。
状況の理解と変化への対応や他者の意図や感情の理解	周囲の状況が理解しづらい場面で、身近な人に状況を確認する。
保有する視機能の活用と向上を図ること	学習中の姿勢に留意したり、危険な場面での対処方法を学んだりする。
認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	触覚や聴覚を使い、対象物の全体像をとらえ概念を形成する。
感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	弱視レンズを利用して小さい文字を読む。
状況に応じたコミュニケーションに関すること	部屋の広さや相手との距離、状況に合わせて、声量を調節する。
身体の移動能力に関すること	身近な人に頼りながら、安全に目的地に行く。

③視覚障がいのある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容		
ア 教育内容・方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	自立活動において、補助具の使用方法や歩行時等の配慮事項を確認。
	b 学習内容の変更・調整	理科の観察や算数の図形領域の学習において触感覚の併用、体育等の屋外活動時の安全確保。
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	拡大文字（ゴシック 14pt）での資料提供。視覚補助具の活用による情報保障。
	b 学習機会や体験の確保	実物や模型を触る等、体験的な学習を通して概念形成を図る。
	c 心理面・健康面の配慮	特記事項なし
イ 支援体制	(ア) 専門性のある指導体制の整備	担任とともに、養護教諭が義眼や目薬の管理を見届け。
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	盲学校見え方の相談支援センターによる弱視の理解啓発授業を実施。
	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	緊急放送時の対応を全職員に周知が必要。
施設・設備	(ア) 校内環境のバリアフリー化	特記事項なし
	(イ) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	教室や廊下等の必要以上の設置物を排除。
	(ウ) 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	音声案内装置

2 学校や学びの場について		
設置者の受け入れ体制	特別支援学校（視覚障がい）の状況	市内に特別支援学校（視覚障がい）有
	小・中学校の状況	自校に弱視特別支援学級の設置なし
本人・保護者の希望	希望する学びの場	本人・保護者とも盲学校を希望
	希望する通学方法	保護者による送迎

3 その他	
併せ有する他の障がいの有無と障がい種	特記事項なし

1 聴覚障がいのある子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①聴覚障がいの状態等の把握		
視点	事項	記録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	新生児スクリーニングにて指摘 みやこ園通所（1/w）
	聴覚障がいの状態	右70dB（HA 40dB） 左80dB（HA 40dB）
	現在使用中の補装具等	デジタル補聴器、デジタルワイヤレス補聴システム使用
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	身体の健康と安全	特記事項なし
	保有する聴覚の活用状況	園や学校では、音声を聞き取り理解している。騒がしい場所や集中しているときには聞き取れないことがある。
	基本的な生活習慣の形成	特記事項なし
	運動能力	特記事項なし
	意思の相互伝達の能力	自分の思いを言葉で表現できる。1対1であれば分からないときに聞き返すこともできる。
	感覚機能の発達	特記事項なし
	知能の発達	特記事項なし
	情緒の安定	安定しているが、聞こえないときにやり過ごしてしまうことがある。
	社会性の発達	仲間と仲良く遊ぶことができる。
	本人の障がいの状態等に関すること	
	障がいの理解	聞こえないことがあることは理解しているが、どのような場面で困り、周囲に何を求めればよいかはあまり考えていない。
	障がいによる学習上又は生活上の困難を改善するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力	話し手にマイクの使用をお願いすることはできるが、その他については受け身で周りからの情報提供を待つことが多い。
	自立への意欲	できることは自分でやる。仲間と関わりながら学びたいという意欲はある。
	対人関係	関わりの深い相手であれば、自分の思いを積極的に伝えてやりとりを楽しんでいる。
	学習意欲や学習に対する取組の姿勢	学習内容は概ね理解できているが、挙手発言は少ない。
	諸検査等の実施	
	個別式検査の種類	特記事項なし
	発達検査	WISC-IV（R3.12）
	検査実施上の工夫等	デジタルワイヤレス補聴システム使用、マスク着用せず実施
	検査結果の評価	知的な遅れはない。下位検査ごとの数値も大きな差異はない。
	行動観察	毎日繰り返されることは率先して動けるが、初めての指示に対しては、仲間の行動を見ながら動いている。
	認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報	
学校での集団生活に向けた情報、成長過程	集団にいと行動できているようにみえるが、音声による指示が聞き取れていないことがある。放送が聞こえず、活動の切り替えができないことがあった。自分から聞きに来ることはあまりない。	

②聴覚障がいのある子供に対する特別な指導内容		
就学前		
聴覚の活用に関する事		補聴器に慣れる。音声と具体物を合わせて事物を理解する。
言葉の習得と概念の形成に関する事		語彙の拡充と長いセンテンスの文を理解する。
言葉を用いて人との関わりを深めたり、知識を広げたりする態度や習慣		手話も用いながら、自分の気持ちを具体的に表現する。
義務教育段階		
自分の障がいの特性の理解と生活環境の調整に関する事		聞こえにくい場や状況を理解する。
障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事		聞こえなかったときの具体的な対処法を複数身に付ける。
他者の意図や感情を理解することや集団への参加に関する事		日常的なかかわりの中で、周囲へ聞こえにくさについての理解を求める。
保有する聴覚の活用やその補助手段及び代行手段の活用に関する事		筆記の依頼、口元を見せてもらうなどの合理的配慮を事前に依頼する。
意思の疎通を図るための言語の受容と表出に関する事		曖昧に覚えている言葉を、音韻や文字の構造から正しく理解する。
生活や学習に必要な言語概念の形成や言語による思考力の伸長に関する事		形状や用途など事物の特徴について文字で確認しながら、言語概念を形成する。助詞を適切に使う。
コミュニケーション手段の選択と活用に関する事		場合に応じて書いて伝えるようにする。
③聴覚障がいのある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容		
ア 教育 内容 ・ 方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	デジタルワイヤレス補聴システムの使用、座席の位置、教師の立ち位置や話す向き。
	b 学習内容の変更・調整	特記事項なし
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	視覚的な資料の多用
	b 学習機会や体験の確保	特記事項なし
イ 支 援 体 制	c 心理面・健康面の配慮	聞こえたかどうかの確認
	(ア) 専門性のある指導体制の整備	特記事項なし
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	補聴器の管理
ウ 施 設 ・ 設 備	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	緊急放送時の対応
	(ア) 校内環境のバリアフリー化	特記事項なし
	(イ) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	特記事項なし
	(ウ) 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	パトライトの設置
2 学校や学びの場について		
設置者の受け入れ体制	特別支援学校（聴覚障がい）の状況	市内に特別支援学校（聴覚障がい）有
	小・中学校の状況	市内に難聴特別支援学級の設置有
本人・保護者の希望	希望する学びの場	本人・保護者とも居住地の学校を希望
	希望する通学方法	通学班での集団登下校を希望
3 その他		
併せ有する他の障がいの有無と障がい種		特記事項なし

1 知的障がいのある子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①知的障がいの状態等の把握		
視点	事項	記録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	出産直前にくも膜下に血の塊ができ、水頭症になりかける。3歳児健診で療育開始。
	知的機能の発達の明らかな遅れ	簡単な文章を拾い読みする、複雑なひらがなを手本を見て正しく書くことが難しいなど、同学年の児童と比べて遅れがある。
	適応行動の困難さ	特記事項なし
	知的発達の明らかな遅れと適応行動の困難さを伴う状態	特記事項なし
	知的機能の障がいの発現時期	乳幼児期
	併存症と合併症	特記事項なし
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	身辺自立	特記事項なし
	社会生活能力	保護者と一緒に公共バスに乗ることができる。
	社会性	特記事項なし
	学習技能	ひらがなが読める。簡単なひらがなが書ける。簡単な足し算ができる。
	運動機能	特記事項なし
	意思の伝達能力と手段	言葉で自分の思いを伝えることができる。
	本人の障がいの状態等に関すること	
	学習意欲、学習に対する取組の姿勢や学習内容の習得の状況	読み書きの習得に時間がかかり、意欲が低下している。
	自立への意欲	自分のことは自分でやろうとする。
	対人関係	大人とのかかわりは積極的だが、同学年には消極的である。
	身体の動き	はさみを使って線に沿って切ることが難しい。
	自己の理解	手先の不器用さに自覚があり、やりたがらない活動がある。
	諸検査等の実施	
	行動観察	特記事項なし
	検査の結果	WISC-IV (R2.6)
	認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報	
	学校での集団生活に向けた情報	集団の中にいることはできるが、関わって遊ぶことはあまりない。
	成長過程	特記事項なし

②知的障がいのある子供に対する特別な指導内容	
障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	遊びや活動の中で、自分の考えや要求を伝え、関わることの良さを味わう。
自己の理解と行動の調整に関する事	実際の、体験的な活動で成功体験を積み、成就感を味わう。
感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	特記事項なし
認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	興味や関心のある内容の写真や本を見て、内容を理解する。
姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	特記事項なし
作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	細かい作業で目と手を協応させて動かす。
コミュニケーションの基礎的能力に関する事	自分の気持ちをあらかじめ決めたゼスチャーで表現する。
コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	手順表等の視覚資料を用いて、自分の思いを伝える。

③知的障がいのある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容		
ア 教育 内容 ・ 方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	特記事項なし
	b 学習内容の変更・調整	本児のペースに合わせた進度や内容が必要。
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	マスの大きなノートの利用、黒板の文字を大きくする具体物を利用した学習
	b 学習機会や体験の確保	見通しがもてるような支援など（手順表・パターン化した流れ）
	c 心理面・健康面の配慮	特記事項なし
イ 支 援 体 制	(ア) 専門性のある指導体制の整備	知的障がい特別支援学級担任による指導
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	特記事項なし
	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	特記事項なし
ウ 施 設 ・ 設 備	(ア) 校内環境のバリアフリー化	視覚情報取得への支援（情報量の調整）
	(イ) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	特記事項なし
	(ウ) 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	特記事項なし

2 学校や学びの場について		
設置者の受け入れ体制	小・中学校の状況	自校に知的障がい特別支援学級の設置有
本人・保護者の希望	希望する学びの場	本人・保護者とも知的障がい特別支援学級への入級を希望
	希望する通学方法	通学班での集団登下校を希望（保護者の見守り有）

3 その他	
併せ有する他の障がいの有無と障がい種	特記事項なし

1 肢体不自由のある子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①肢体不自由の状態等の把握		
視点	事項	記録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	乳児期には医療センターで、幼児期からは療育施設で理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士の療育を受ける。
	乳幼児期の姿勢や運動・動作の発達等	首が座る、這い這いする、手で握る、立つ、歩く等の運動発達が遅れていた。
	医療的ケアの実施状況	特記事項なし
	口腔機能の発達や食形態等の状況	口唇、舌、咽頭の動きが不適切で、正確な発音が形成されにくい。
	現在使用中の補装具等	補装靴を使用している。
	医療機関等からの情報の把握	脳性麻痺の診断有（右半身に軽度の麻痺） てんかん発作もあるため、転倒に配慮が必要。
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	身体の健康と安全	転倒する可能性があり、大人数の中では歩行への配慮が必要である。
	姿勢	左側に重心をかけている。疲れやすいため、歩く時や座っている時に、徐々に姿勢が崩れる。
	基本的な生活習慣の形成	着替えは一部他者の手伝いを必要とする。 排泄は洋式トイレを必要とする。
	運動・動作	左足を軸に歩く。独歩はできるが、ふらつきがある。転倒時に手をつくことはできる。
	意思の伝達能力と手段	伝える意欲が高く、身振り手振りや表情を交えて伝えようとしているが、話している言葉自体は、やや聞き取りにくい。
	感覚機能の発達	バランス保持が難しい。また、図と地の弁別に苦しさがある。
	知能の発達	話す言葉や物の名前がすぐに出てこないことがある。麻痺のため話す、書くことに時間がかかる。
	情緒の安定	できないことがあると一時的に落ち込むことがあるが、励まされるとやる気を出す。
	社会性の発達	幼稚園の頃から一緒に過ごしていた慣れた仲間から声をかけられると、活動に参加する。
	障がいが重度で重複している子供	特記事項なし
	本人の障がいの状態等に関すること	
	障がいの理解	周りの仲間よりも動作がゆっくりであるという理解をしている。
	障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力	書字等、左手でできることを増やそうとしている。
	自立への意欲	できるようになりたいという思いがとても強い。
	対人関係	幼稚園で一緒に過ごした仲間や、教師、支援員には、安心して関わっている。
	学習意欲や学習に対する取組の姿勢	絵画制作や左手での書字、運動等、苦手ではあるが、精一杯取り組み、向上心が強い。
	諸検査等の実施	
	行動観察	聞かれたことに対して理解を示し、粘り強く回答しようとしていた。回答するまでにやや時間がかかった。
	検査の結果	記憶することが苦手である。
認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報		
学校での集団生活に向けた情報 成長過程	仲間との関係が良好であることから、関わる場面を多く持てると、本人のやる気につながる。	

② 肢体不自由のある子供に対する特別な指導内容	
姿勢に関すること	片足立ち等右足に体重をかける動きを意識的に行う。
保有する感覚の活用に関すること	自分の右側の手足の動きや体位の特徴について視覚的に理解し、目視しながら動きを調整する。
基礎的な概念の形成に関すること	実物に触れたり、感じたりしたことを言語化する。
表出・表現する力に関すること	時間がかかっても最後まで正確に話したり、書いたりする。場合により内容を省略することを依頼する。
健康及び医療的ニーズへの対応に関すること	体調不良や体の違和感を感じたときに、速やかに報告する。
障がいの理解に関すること	安定した歩行や円滑な会話など、前よりもできるようになったことを理解する。

③ 肢体不自由のある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容

ア 教育 内容 ・ 方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	安定した姿勢や体幹支持の向上のため、机や椅子の高さ調整、必要に応じた補助具を利用する。
	b 学習内容の変更・調整	書く時間の延長、ICT機器や口頭回答への代替、動きのある活動の内容変更などといった調整を行う。
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	マス目の大きいノート、プリントを利用する。
	b 学習機会や体験の確保	体験しながら身に付ける経験が少ないため、実物や具体物を通して学ぶ機会を増やす。
	c 心理面・健康面の配慮	時間がかかってもやりきれたことを認め合うことで、安心して取り組める学級の雰囲気等を常に大切にす。
イ 支 援 体 制	(ア) 専門性のある指導体制の整備	理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士と連携を図り、環境整備に係る助言をいただく。特別支援学校から、学習時に必要な教材を借用する。
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	参加可能な教科等においては、通常の学級との交流及び共同学習を行い、理解を求め。
	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	担任と支援員の2人が常時教室にいるが、いない場合は、職員室から1名補助に行く。
ウ 施 設 ・ 設 備	(ア) 校内環境のバリアフリー化	スロープやエレベーターが設置されており、廊下も幅が広いので、安全な移動ができる。
	(イ) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	教室を南舎1階の昇降口に近い場所に設置する。
	(ウ) 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	教室と運動場の距離が近く、ベランダからも昇降口からも避難できるようになっている。また、車椅子も教室に常備している。

2 学校や学びの場について

設置者の受け入れ体制	小・中学校の状況	自校に肢体不自由特別支援学級の設置有
本人・保護者の希望	希望する学びの場	本人・保護者とも肢体不自由特別支援学級への入級を希望
	希望する通学方法	保護者による送迎を希望

3 その他

併せ有する他の障がいの有無と障がい種	特記事項なし
--------------------	--------

1 病弱・身体虚弱の子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①病弱・身体虚弱の状態等の把握		
視点	事項	記録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	乳児期早期から筋力の低下や筋肉の緊張の低下、関節拘縮が認められる。入退院を繰り返し、リハビリを継続。
	病気等の状態	筋ジストロフィー（福山型）の診断有
	心身の状態や発達	体重の増加不良が認められる。
	医療的ケアの実施状況	喀痰吸引、経管栄養（胃ろう）、人工呼吸器（口鼻マスク式：自発呼吸あり）
	現在使用中の機器や補装具等	車椅子を使用している。
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	身体の健康と安全	咳をする力が弱く、嚥下機能も低下していることから、風邪を引きやすくこじらせやすい。
	姿勢	手足に力が入りにくく、だらしとした状態になりやすいが、動かないわけではない。
	基本的な生活習慣の形成	飲み込む力が弱いため、食事は経管栄養（胃ろう）としている。排泄は全介助である。
	運動・動作	座りながらの移動をすることは若干できる。座位までの運動発達のため、立位での移動は難しい。
	意思の伝達能力と手段	日常生活の衣食住に関するものの理解はある程度できる。要求する際、単語で伝えたり、手差しや指差し、目の動きで伝えたりする。
	感覚機能の発達	5歳後半から、関節拘縮が始まっており、姿勢をコントロールすることが難しくなりつつある。
	知能の発達	知的に遅れが認められる。
	情緒の安定	行動や生活経験が制約され、常に介助が必要となるため、やる気になれないことがある。
	社会性の発達	恥ずかしがり屋ではあるが、関わりのある慣れた大人に対しては、コミュニケーションを図ろうとする。
	障がいが重度で重複している子供	知的障がい、嚥下障がい、呼吸障がい、痙攣（発熱に伴う）
	本人の障がいの状態等に関すること	
	病気等の理解	思うように動けるわけではないという理解をしている。
	病気等による学習上又は生活上の困難を改善するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力	様々なコミュニケーション手段を学ぼうとしている。リハビリにも無理をしない程度に取り組んでいる。
	自立への意欲	依頼心がやや強く、主体的に動くことが少ない。
	対人関係	家族や、医療関係者、教員等 普段から一対一で関わる大人に対しては安心している。
	学習意欲や学習に対する取組の姿勢	特記事項なし
	諸検査等の実施	
	個別式検査の活用	特記事項なし
	発達検査等について	特記事項なし
	検査結果の評価	特記事項なし
	検査実施上の工夫等	特記事項なし
	行動観察について	特記事項なし
認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報		
学校での集団生活に向けた情報 成長過程	幼少期から入退院を繰り返し、同年代の児童と過ごした時間は短いため、集団になじむまでにやや時間がかかる。	

②病弱・身体虚弱の子供に対する特別な指導内容		
病気等の状態の理解と生活管理に関すること		心身の状態に応じて参加できる活動を判断する。積極的に食事をとる。
情緒の安定に関すること		出来ないことへの不安な気持ちを表現する。楽しい活動に積極的に取り組む。
病気等による学習上又は生活上の困難を改善する意欲に関すること		リハビリに継続的に取り組み、できた実感を味わう。
移動能力や移動手段に関すること		負担のない範囲で自分で車椅子を動かしたり、他者に依頼して車椅子を動かしてもらったりする。
コミュニケーション手段の選択と活用に関すること		意思を伝えるため、トーキングエイドやタブレット端末などを用いる。
表出・表現する力の育成		表情、身振り、ICT機器等を活用して自分から意思を伝える。
③病弱・身体虚弱の子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容		
ア 教育 内容 ・ 方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	関節の拘縮や変形の予防のため、車いすを多用し、肺や胸の動く範囲を保つ活動等を取り入れる。適度抵抗のある内容にリハビリの難易度を調整する。
	b 学習内容の変更・調整	知的障がい特別支援学校における教育課程の編成を基本とし、病弱の程度に応じた自立活動を取り入れる。
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	タブレット端末を用いて、動画視聴やコミュニケーション機会を取り入れ、他とのかかわりを増やす。
	b 学習機会や体験の確保	可能な直接体験や、ICT機器や教具等の操作により実感を伴う学習活動を積極的に取り入れる。
	c 心理面・健康面の配慮	自分でできることは自分で行い、難しいことは依頼する等、自身で達成した成功体験をもとに活動への意欲を高める。
イ 支 援 体 制	(ア) 専門性のある指導体制の整備	教室に看護師が常駐し、授業中でも吸引等のケアを行うなど、その場で迅速に対応する。
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	体調が急変した場合の緊急対応について、教職員や看護師への理解啓発を図る。
	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	速やかに医療機関へ搬送できるよう、事前連絡をする。
ウ 施 設 ・ 設 備	(ア) 校内環境のバリアフリー化	室温を一定に保ち、体温調節のしにくさへの配慮。また、車椅子での移動がしやすいよう、EVやスロープの設置、段差の撤去等が必要。
	(イ) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	特別支援学校の場合、医療センターから近く、緊急搬送が必要な時には迅速な対応が可能である。また、入院が必要な時には、訪問教育も可能である。
	(ウ) 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	車椅子による避難が可能な複数の避難経路及び所要時間の事前確認。EV停止時の上下移動の方法確認。
2 学校や学びの場について		
設置者の受け入れ体制	小・中学校の状況	自校や市内に病弱・身体虚弱特別支援学級の設置なし 看護師の配置等是对应可能（要相談）
本人・保護者の希望	希望する学びの場	本人・保護者は特別支援学校（病弱）への入学を希望
	希望する通学方法	保護者による送迎を希望
3 その他		
併せ有する他の障がいの有無と障がい種		上記のとおり

1 言語障がいのある子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①言語障がいの状態等の把握		
視点	事 項	記 録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	乳幼児健診で言葉の遅れを指摘され、年中時より発達支援センターに通所。
	言語障がいの状態	発音に誤りがある。
	音声や構音の状態	カ行音、サ行音、ラ行音に置換や歪みがみられる。
	音の聴覚的な記憶力	「エレベーター」を「エベレーター」など、文字数の多い語を正しく復唱することが難しい。
	発語器官の運動	舌に力が入り、スムーズに動かない。
	発話の内容	特記事項なし
	話し言葉の流暢性の状態	特記事項なし
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	身体健康と安全	特記事項なし
	聴覚的な記憶力の状態	単音では、聞いた音と自分の発した音との違いに気付く。
	基本的な生活習慣の形成	食事に時間がかかることがある。
	運動能力	指先の使い方が不器用である。
	意思の相互伝達の能力	自分から話すことは少ない。
	感覚機能の発達	特記事項なし
	知能の発達	知的な遅れは認められない。
	情緒の安定	集中できる時間が短い。
	社会性の発達	仲間に誘われると一緒に遊ぶ。
	本人の障がいの状態等に関すること	
	障がいの理解	仲間から発音の誤りを指摘され、泣いたことがあった。
	障がいによる学習上又は生活上の困難を改善するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力	正しい発音ができるようになりたいという気持ちをもっている。
	自立への意欲	仲間の後ろをついていくことが多い。
	対人関係	園では特定の子と遊ぶことが多かった。
	学習意欲や学習に対する取組の姿勢	集中できる時間が短い。
	諸検査等の実施	
	個別式検査の種類	新版構音検査（R3.5）
	発達検査	特記事項なし
	検査実施上の工夫等	絵カードを使用して単語検査を実施した。
	検査結果の評価	カ行音、サ行音、ラ行音に置換や歪みがみられた。
	行動観察	自信がないときには極端に声量が小さくなった。
認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報		
学校での集団生活に向けた情報、成長過程	自分から仲間に話しかけることは少ない。	

②言語障がいのある子供に対する特別な指導内容		
構音障がいの指導		
発語器官の運動機能の向上に関すること		遊びを通して構音器官の運動機能を高める。
音の聴覚的な認知力の向上に関すること		単語や文中から目的の音を聞き、正誤を判断する。
構音の誘導に関すること		構音器官の位置や動きを意識しながら、正しい構音の仕方を習得する。
障がいの状態の理解と生活管理に関すること		特記事項なし
話し言葉の流暢（りゅうちょう）性に関わる障がいの指導		
自由な雰囲気です「楽に話す」ことを奨励する環境作りに関すること		特記事項なし
「楽に話す」体験をさせる方法に関すること		特記事項なし
難発から抜け出す方法に関すること		特記事項なし
苦手な場面や語音に対する緊張の解消に関すること		特記事項なし
日常生活におけるコミュニケーションの態度に関すること		特記事項なし
本人の自己実現に関すること		特記事項なし
言語機能の基礎的事項の発達の遅れや偏りに関する障がいの指導		
コミュニケーションの態度や意欲に関すること		会話を通して伝え合う楽しさを実感できるようにする。
言語活動の促進に関すること		様々な人と関わるができる機会を設定する。
実際の生活場面等における言語の使用に関すること		普段の生活の中でよく使う言葉を使って構音練習を行う。
話す、聞く、読む、書くなどの言語スキルの向上に関すること		発音の誤りが書字に影響しないよう、発音と文字を同時に指導する。
③言語障がいのある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容		
ア 教育 内容 ・ 方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	教科書の苦手な音に印を付けるなど、意識して発音できるようにする。
	b 学習内容の変更・調整	ゆっくりと音読できるように分量の調整を行う。
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	どうしても伝わらない場合は、書いて伝える。
	b 学習機会や体験の確保	特記事項なし
イ 支 援 体 制	c 心理面・健康面の配慮	特記事項なし
	(ア) 専門性のある指導体制の整備	発達支援センターと連携を図る。
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	通級指導教室について、児童や保護者に紹介する。職員向け研修で、情報共有を図る。
ウ 施 設 ・ 設 備	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	特記事項なし
	(ア) 校内環境のバリアフリー化	特記事項なし
	(イ) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	周囲からの刺激を受けにくい座席にするように配慮する。
(ウ) 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	特記事項なし	
2 学校や学びの場について		
設置者の受け入れ体制	小・中学校の状況	自校に言語障がい通級指導教室の設置有
本人・保護者の希望	希望する学びの場	本人・保護者とも言語障がい通級指導教室の利用を希望
	希望する通学方法	通学班での集団登下校を希望
3 その他		
併せ有する他の障がいの有無と障がい種		特記事項なし

1 自閉症のある子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①自閉症の状態等の把握		
視点	事項	記録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	2歳児健診にて言葉の遅れから療育を勧められ、就学前まで療育を実施した。
	幼児期の発達状況	1人遊びを好む。急な変更に対応できず、泣きながら物に当たることがある。
	併存している障がいの有無	注意欠陥多動症
	服薬治療の有無	特記事項なし
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	生活リズムの形成	睡眠時間が安定しない。
	基本的な生活習慣の形成	ルーティーンとなっていることはできる。変更を求められると途端にできなくなる。
	活動に対する状況	興味や関心のあることであれば取り組む。
	意思の伝達能力と手段	一方的に話し続けたり、話の内容が飛躍したりすることがある。
	知能の発達	数量や言葉等の理解が偏っている。
	情緒の安定	興奮からパニックに陥ることがある。自信がなく、自己肯定感が低い。
	本人の障がいの状態等に関すること	
	感覚や認知の特性	感覚過敏から、肌触りのよい衣服を好んで着る。聞きもらしや指示を取り間違えることが多い。
	障がいによる学習上又は生活上の困難を改善するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力	困ったときに黙り込んでしまう。
	社会性及び集団への参加の状況	1人であることを好む。状況や自分の気持ちを表現することが苦手である。
	学習の状況	自分の興味のある分野の知識は豊富である。
	自己理解の状況	自分のできないことに関して悩みをもっている。
	諸検査等の実施	
	行動観察	興味による偏りがある。
	検査の結果	言語による理解や表現が難しい。
	認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報	
	学校での集団生活に向けた情報	仲間を真似て行動するようになった。
	成長過程	担任や支援員、特定の仲間とは、言葉による意思疎通ができるようになってきている。

②自閉症のある子供に対する特別な指導内容	
他者との関わりの基礎に関すること	写真や絵カードを使って、気持ちを伝える。
情緒の安定に関すること	クールダウンの場所を決め、方法を身に付ける。
状況の理解と変化への対応に関すること	状況に合わせて行動する。急な変更時も、状況を把握し、自己選択する。
障がいの特性の理解と生活環境の調整に関すること	不安定になった時に、自分からクールダウンを申し出る。
感覚調整の補助及び代行手段の活用に関すること	特定の肌触りの衣服の着用を可能な限り認める。
認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	視覚的なヒントを得ながら全体を把握する。
他者の意図や感情の理解に関すること	相手の表情や声のトーンから感情を読み取る。
生活習慣の形成に関すること	鏡を見て身だしなみを整える習慣をつける。

③自閉症のある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容		
ア 教育 内容 ・ 方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	変更は事前に伝える。自分の行動について選択肢を設け、自己選択できるようにする。
	b 学習内容の変更・調整	特記事項なし
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	場面や状況を踏まえた理解ができるように、視覚支援や動作等を通して理解を補う。
	b 学習機会や体験の確保	実際的な体験の機会を多く設定する。
	c 心理面・健康面の配慮	成功体験を重ね、本人や保護者と共有する。
イ 支 援 体 制	(ア) 専門性のある指導体制の整備	各種相談機能を活用し、専門家からの助言を受ける。
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	方法や手順に本人独自のこだわりがあり、受けとめながら伝える必要があることについて、教職員で共通理解を図る。
	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	クールダウンの場所や方法を決めて全職員の誰もが対応できるように共通理解を図る。
ウ 施 設 ・ 設 備	(ア) 校内環境のバリアフリー化	シンボルマーク等を活用し、教具の位置を示す。
	(イ) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	興奮が収まらない場合を想定し、クールダウン等のための場所を確保する。
	(ウ) 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	極度に混乱しパニックに陥ったときに、外部からの刺激を制限できるような簡易個室を用意する。

2 学校や学びの場について		
設置者の受け入れ体制	小・中学校の状況	自校に自閉症・情緒障がい特別支援学級の設置有
本人・保護者の希望	希望する学びの場	本人・保護者とも自閉症・情緒障がい特別支援学級への入級を希望
	希望する通学方法	通学班での集団登下校を希望

3 その他	
併せ有する他の障がいの有無と障がい種	上記のとおり

1 情緒障がいのある子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①情緒障がいの状態等の把握		
視点	事項	記録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	3歳児健診で、医療機関への受診を勧められた。
	幼児期の発達状況	就学時健診では、慣れない大きな集団の中で落ち着かず、個別に実施した。
	行動問題の状態	【内在化行動問題】 ・場面によって過度の不安や恐怖、身体愁訴有 【外在化行動問題】 ・離席や教室からの抜け出し有 ・場面によっては集団からの逸脱行動有
	併存している障がい等の有無	特記事項なし
	身体症状の有無	ストレスによる腹痛などの身体的な不調有
	服薬治療の有無	小2より服薬中
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	生活リズムの形成	不安感が強くなると、生活リズムが崩れる。
	身の自立の状態	身の処理に関しては、手順や方法を身に付けているものの、不安感が強くなるとできなくなる。
	集団参加の状況	慣れた集団で落ち着いた状態であれば、特定の児童の活動を模倣することを通して参加できる。
	本人の障がいの状態等に関すること	
	学習意欲や学習に対する取組の姿勢や態度、習慣	学習の態度や習慣は身に付いているが、学習内容によっては、主体的に取り組めない。理解力はあるが、不安感が強くなると集中しづらい。
	障がいによる学習上又は生活上の困難を改善するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力	人と関わる際の緊張や不安を軽減するための支援や方法は理解しつつあるが、自ら活用することはできない。困ったときには、特定の教師にのみ支援を求めることができる。
	学習の状況	落ち着いた環境であれば、年齢相応の態度や姿勢で学習活動に参加できる。
	意思の伝達の状況	特定の教師に対しては、自分の意思を言葉で伝えようとする。
	自己理解の状況	自分の特性には気付いているものの、それらを正しく認識し、改善・克服しようとする意欲はない。
	諸検査等の実施	
	行動観察	回答できなさそうだと感じると不安が増し、爪かみが始まる。
	検査の結果	WISC-IV (R3.6) 知的な遅れは認められない。
	認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報	
学校での集団生活に向けた情報	集団での遊びは好まず、特定の仲間と集団から離れたところで遊んでいた。興味や関心のあることには、夢中になって取り組んだ。	
成長過程	年中時まで常に教師のそばを離れずにいたが、年長時になってからは、特定の仲間となら関わりがもてるようになった。	

②情緒障がいのある子供に対する特別な指導内容		
情緒の安定に関すること		発表場面では、一番安心して話せる方法（タブレット端末に書いてから発表する等）を決め、伝える。
状況の理解と変化への対応に関すること		場所や場面の变化がある際に、教師の支援を受けながら受け入れる。
状況に応じたコミュニケーションに関すること		日記や作文などの伝えやすい方法で気持ちや意思を表現する。
言語の表出に関すること		身近な人に対してあいさつや定型の文を大きな声で話す。
③情緒障がいのある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容		
ア 教育 内容 ・ 方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	自分の意思を表現するために必要な技術や態度が身に付くような指導内容を設定する。
	b 学習内容の変更・調整	不安定になると学習の積み上げが難しいため、理解の状況に応じ基礎的・基本的な内容の習得から開始する。また、一律な評価方法による不利益が生じないようにする。
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	意図したことを言語表現できない場合があることから、緊張や不安を緩和させるよう配慮する。
	b 学習機会や体験の確保	欠席が多いことにより生じる学習機会の不足に配慮する。
	c 心理面・健康面の配慮	不安定な状態が続くことによる、登校時間の減少や自尊心の低下に配慮する。主体的にコミュニケーションを取れるキーパーソンを核とし、支援体制を整える。
イ 支 援 体 制	(ア) 専門性のある指導体制の整備	医療機関からの助言を受けながら、障がいの特性について理解を深められるようにする。
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	他者からの働きかけを適切に受け止められないことがあることや言葉の理解が十分ではないことがあること等について、周囲の児童や教職員、保護者への理解啓発に努める。
	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	災害時の環境の変化に適応することが難しい場合もあるため、心理的に混乱することを想定し、少人数で対応できるような支援体制を整備する。
ウ 施 設 ・ 設 備	(ア) 校内環境のバリアフリー化	安心して自主的な移動ができるように、特別教室への動線などを分かりやすくする。
	(イ) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	興奮が収まらない場合を想定し、クールダウン等のための場所を確保する。
	(ウ) 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	パニックに陥ったときを想定し、外部からの刺激を制限できるような避難場所及び施設・設備を整備する。

2 学校や学びの場について		
設置者の受け入れ体制	小・中学校の状況	自校に自閉症・情緒障がい特別支援学級の設置有
本人・保護者の希望	希望する教育の場	本人・保護者とも自閉症・情緒障がい特別支援学級への入級を希望
	希望する通学方法	保護者による送迎を希望

3 その他	
併せ有する他の障がいの有無と障がい種	特記事項なし

1 学習障がいのある子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①学習障がいの状態等の把握		
視点	事項	記録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	特記事項なし
	幼児期の発達状況	就学時健診で、課題について複数回説明を要した。
	併存している障がい等の有無	特記事項なし
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	言語面	言葉の分解や抽出に失敗することがある。
	運動面	特記事項なし
	感覚や認知	聴覚的記憶が苦手 聞いたことを反復できない。
	姿勢	特記事項なし
	集中力	持続が難しい。
	本人の障がいの状態等に関すること	
	教科学習上の困難さ	指示の聞き間違いや、聴写の失敗がある。
	身体の動き	特記事項なし
	感覚や認知の特性	視覚・聴覚検査では異常はない。
	学習意欲や学習に対する取組の姿勢や態度、習慣	意欲はあるが、聞きもらしや忘れものが多い。
	自己理解の状況	失敗を自覚し、改善したいと願っている。
	諸検査等の実施	
	行動観察	認知面や対人関係でつまづくことが多い。言葉での理解、聴覚的な処理が苦手。
	検査の結果	WISC-IV (R3.8) 知的な遅れは認められない。
	認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報	
	学校での集団生活に向けた情報、成長過程	就学時の送り事項なし
②学習障がいのある子供に対する特別な指導内容		
感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	メモをすると理解しやすいことを実感する。	
代替手段等の使用に関すること	ボイスレコーダーやタブレット端末を活用し、予定等の必要事項を記録する。	
言語の形成と活用に関すること	特記事項なし	
コミュニケーション手段の選択と活用に関すること	最後まで聞き取り理解することで仲間とコミュニケーションを図る楽しさと充実感を味わう。	
感覚の総合的な活用に関すること	特記事項なし	
認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	音声と言語を正確に結び、概念を定着する。	
集団への参加の基礎に関すること	聞きもらしたときに自分から尋ねる。	
障がいの特性の理解に関すること	聞きもらしに注意をし、そのままにせず聞きなおすことの大切さに気付く。	
情緒の安定に関すること	工夫してできた経験を重ね、自信をもつ。	

③学習障がいのある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容

ア 教育 内容 ・ 方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	学習活動によって、ボイスレコーダーやタブレット端末で記録する。席の位置を配慮する。
	b 学習内容の変更・調整	特記事項なし
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	必要に応じて要点を反復して伝える。
	b 学習機会や体験の確保	特記事項なし
イ 支 援 体 制	c 心理面・健康面の配慮	聞くことに集中できる場を設定する。
	(ア) 専門性のある指導体制の整備	各種相談機能を活用し、専門家からの助言を受ける。
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	配慮に関わって、職員向け研修を実施し共通理解を図る。
設 施 備 設	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	特記事項なし
	(ア) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	指示を出すときには、実物や具体物を取り入れる。

2 学校や学びの場について

設置者の受け入れ体制	小・中学校の状況	自校にLD・ADHD等通級指導教室の設置有
本人・保護者の希望	希望する学びの場	本人・保護者ともLD・ADHD等通級指導教室の利用を希望
	希望する通学方法	通学班での集団登下校を希望

3 その他

併せ有する他の障がいの有無と障がい種	特記事項なし
--------------------	--------

1 注意欠陥多動性障がいのある子供の教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～		
①注意欠陥多動性障がいの状態等の把握		
視点	事項	記録
医学的側面	障がいに関する基礎的な情報の把握	
	既往・生育歴	特記事項なし
	幼児期の発達状況	健診時に療育を勧められたが通わなかった。
	不注意、衝動性、多動性の状態	注意の集中が短い。身体を常に動かしている。
	併存している障がい等の有無	特記事項なし
	服薬治療の有無	小1より服薬有
心理学的・教育的側面	発達の状態等に関すること	
	生活リズムの形成	準備等に時間を要し、遅れがちである。
	基本的な生活習慣の形成	片付けが苦手、持ち物がそろわない。
	遊びの状況	自分一人でルールを変えてしまうことがある。
	社会性	順番を守れないことがある。
	本人の障がいの状態等に関すること	
	学習意欲や学習に対する取組の姿勢や態度、習慣	忘れものが多い。指示の聞きもちが多い。
	感覚や認知の特性	漢字や数字の書き写しに間違いが多い。
	社会性	順番を守れないことがある。
	身体の動き	座位や立位が崩れ、活動が持続できなくなる。
	学習の状況	概ね学習は理解している。
	自己理解の状況	自分ばかり叱られていると怒ることがある。
	諸検査等の実施	
	行動観察	質問を最後まで聞かず、出し抜けて答える。
	留意点を踏まえた結果	視覚優位。知的な遅れは認められない。
	認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報	
	学校での集団生活に向けた情報	他者のおもちゃを奪う、たたくことが多い。
	成長過程	個別であれば、話を聞けるようになってきた。

②注意欠陥多動性障がいのある子供に対する特別な指導内容		
注意集中の持続に関すること		注目すべき場所を分かりやすくし、意識的に着目して取り組む。
行動の調整に関すること		自分で実現可能な目標を決め、適切な行動を選択する。
生活のリズムや生活習慣の形成に関すること		日課の中に片付け時間を決め、片付け後の写真を見ながら整理整頓する。
姿勢保持の基本的技能に関すること		座面の滑止めマットを利用し、姿勢が崩れないように座る。
作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること		特記事項なし
集団への参加の基礎に関すること		小集団のゲーム等で簡単なルールを理解し、守る。
行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること		自分でタイマーを設定し、時間を確認しながら活動する。
言語の受容と表出に関すること		気持ちを表現するのに適した言葉を知る。
障がいの特性の理解に関すること		一度周囲を見てから話したり動いたりして、相手の思いを知ることの大切さに気付く。
情緒の安定に関すること		イライラしたときの対処法を考える。
③注意欠陥多動性障がいのある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容		
ア 教育 内容 ・ 方法	(ア) 教育内容	
	a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	特定のものに注意を向けることができるよう、黒板まわりの整理をするなどの配慮をして指導する。
	b 学習内容の変更・調整	内容を分割して適切な量にするなどして調整する。
	(イ) 教育方法	
	a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	指示を短く行い、視覚的資料に残す。
	b 学習機会や体験の確保	危険防止策を講じ、体を動かす機会を取り入れる。
イ 支 援 体 制	c 心理面・健康面の配慮	良い面を認め合える学級の雰囲気づくりをする。
	(ア) 専門性のある指導体制の整備	医療機関と連携し、指導の充実を図る。
	(イ) 子供、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	不適切だとみられる行動にも理由があるなど、周囲の児童や教職員に対し、理解を求める。
施設 備 設	(ウ) 災害時等の支援体制の整備	端的な避難指示について、教職員で共有する。
	(ア) 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	クールダウンできる場所を確保する。危険個所には、立ち入り禁止や危険であることの表示をする。
	(イ) 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	避難場所において落ち着きを取り戻せる場所を確保する。単独行動を避ける。

2 学校や学びの場について		
設置者の受け入れ体制	小・中学校の状況	自校にLD・ADHD等通級指導教室の設置なし 中学校区にLD・ADHD等通級指導教室の設置有
本人・保護者の希望	希望する学びの場	本人・保護者ともLD・ADHD等通級指導教室の利用を希望
	希望する通学方法	自校に設置されず、他校通級となった場合は保護者による送迎を希望

3 その他		
併せ有する他の障がいの有無と障がい種		特記事項なし